

2学期のスタートにあたって

2学期が始まりました。各学級では早速、朝の玄関でのあいさつや、黒板へのメッセージなどで子供たちを温かく迎え、学活の時間には夏休みの思い出や2学期に頑張りたいこと等のグルーptークで、先生方も子供たちも笑顔あふれる2学期の学級開きが行われていました。

夏休みの加力補習では、支援員のみなさんや放課後学習教室の二人の支援員さんにもご協力をいただき、おかげさまで、どの教室もほぼマンツーマンという恵まれた環境で補習を行うことができました。生徒たちもいろいろな先生方にたくさん励ましの言葉をかけていただき、頑張ることができました。夏休み明けの宿題点検も早速ありがとうございます。

SSWのお二人の先生方も早速、家庭訪問に行ってくださいありがとうございます。始業2日目にはSCの森島先生も来校され、支援会が行われました。ありがとうございました。

改めて考えると、子供たちは本当に多くの先生方に関わってもらっていることを実感します。2学期も「TEAM NAKACHU」で子供たちの成長を一緒に支え、見守っていきましょう。どうぞよろしくお願いします。



教科主任会より

【各教科会 2学期の取組】(1学期の総括より)

- 国語： ノートをどのように書かせているか(振り返り含む)の交流 / 授業を動画に撮って交流
- 社会： 学力が定着していない生徒たちへのサポート / 家庭学習(どう提示すれば力が付くか)の工夫
- 数学： 授業研究会に向けての更なる検討(どの時間に、どのような内容を)
- 理科： 評価(何をどのように見取るのか)の検討 / 板書の交流
- 体育： 単元デザインの研究、検討
- 音・美・技/家： ガイドラインを基にした授業の研究、検討
- 英語： 単元ゴールに向けた授業の検討 / 評価テスト、パフォーマンステストの検討(単元に入る前に)

*他教科の取組を参考に、今学期も教科会を充実させていきましょう。

【「実践研究協働校事業」数学科教材研究会 齊藤一弥先生ご講話からの学び・今後の取組】

*項目分けについては先生方の発言を基に松本が行っています。教科主任会で出されたこと以外にも、先生方に共有したいことを加筆しています。

評価と指導

- 能力を測るということは、授業の中で日々見取り、次の授業を組織していくということ。テストまで待つことではない。
- 「どのような資質・能力」を「どのような活動」で育成し、その資質・能力を「どのように見取るのか」を具体的に考えておくことが必要。評価を基に授業(指導)を考える。
- 見方・考え方を含め、1時間1時間をどう見取っていくのかの単元づくりを大事にしていく。
- 「まとめ」を資質・能力ベースで考えることで授業づくりを行い、教師が考えている「まとめ」につながる授業展開を行えるようにする。
- 学習指導要領に沿った授業を行う中で、子供たちがどんな姿になっていけばよいか具体的に持っておき、それを見取るためにどのような活動や評価を行うのかを準備しておく。
- テストだけでなく活動の中でも生徒の資質・能力を見取っていく。知識・技能が結びつくように、また知覚したことを表現に結び付けていけるように色々な部分を結び付けて指導していく。



小中の系統性

- 小学校にもっと目を向け、小学校と同じことをしないようにする。(学びのプロセスは進化し続ける)
- 今後の単元や上学年の学習につながる見方・考え方を、先を見越して種まきしておく。
- 〇〇的活動(教科特有の活動)を遂行し、見方・考え方を成長させ、学びの質を向上させる。(カリマネの連続性の基に)

教材研究会の在り方

- 指導案がどうかではなく、身に付いた資質・能力をいかに捉えるか、付けたい力が付く単元計画になっているか、9年間の学びの中で見方・考え方が成長し、資質・能力が育成される構想になっているかなど、協議の仕方や視点を考えていく。

*齊藤先生のこれまでの板書写真を職員室奥のホワイトボードに掲示しています。教科会等でご活用ください。

